

大崎地区における交通課題に対する取り組みについて

第10回品川区地域公共交通会議資料
(令和7年10月10日)

(目次)

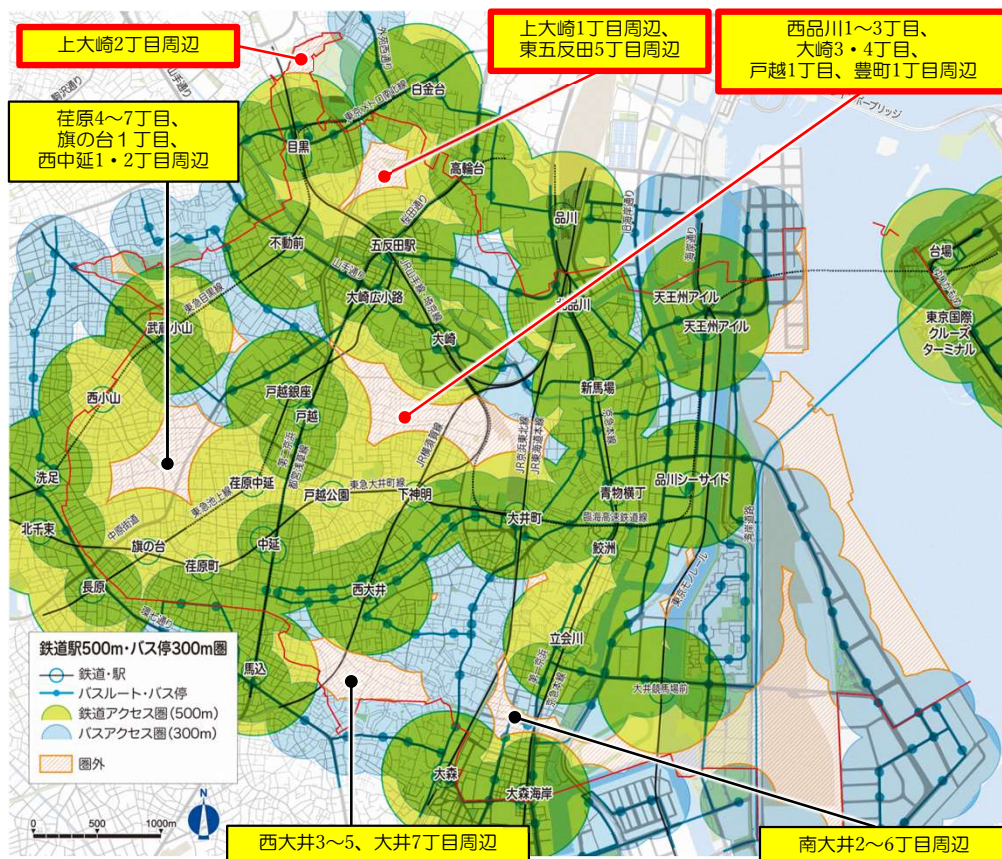
1. コミュニティバス導入計画での位置付け
2. 課題・方向性について

1. コミュニティバス導入計画での位置付け

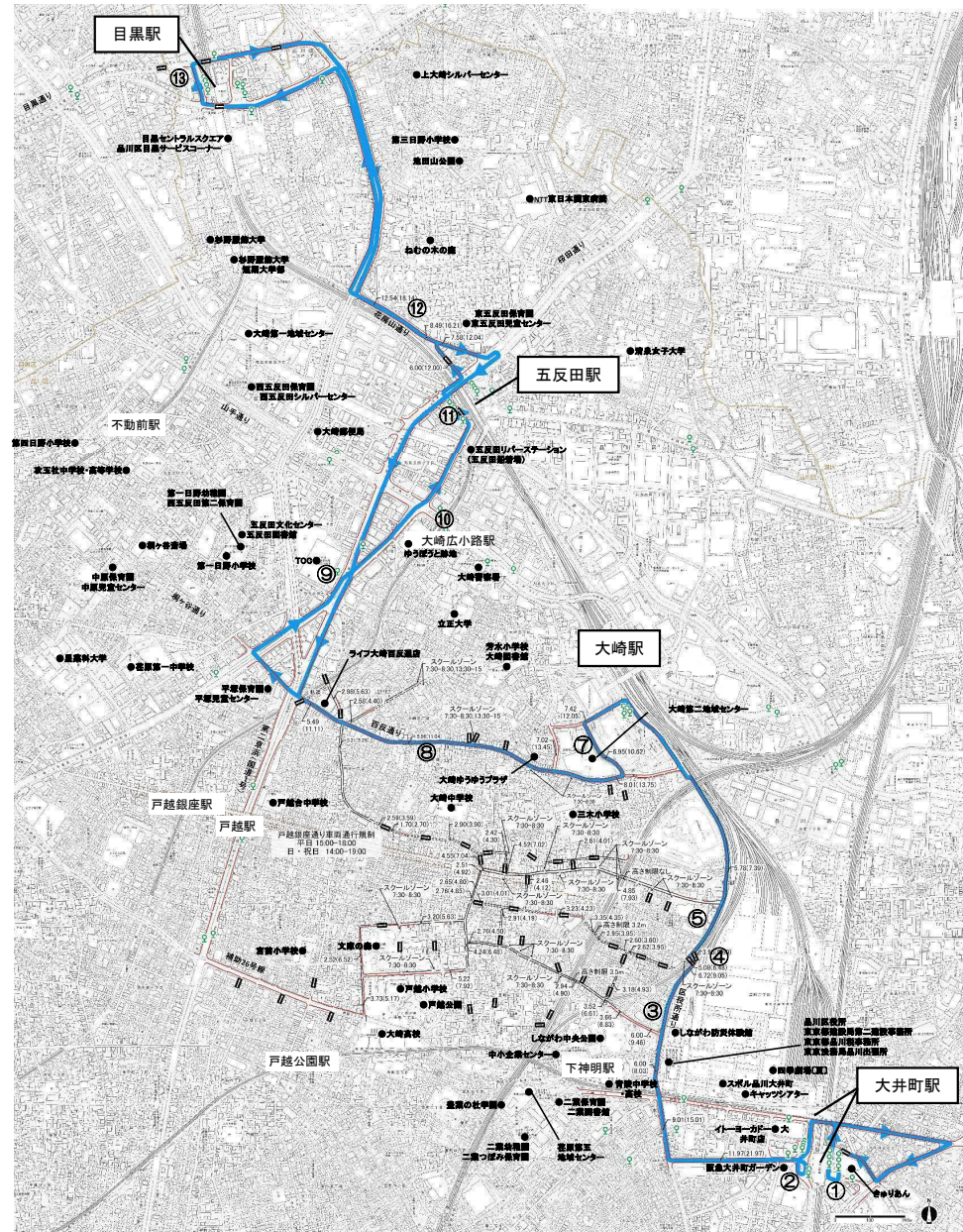
(1)大崎ルートについて

- コミュニティバス導入計画では3つの試行運行候補路線を設定している。
- このうち大崎ルートは、交通サービス圏域外を通るようなルートを基本としつつ、ワークショップでの意見を踏まえて、起終点を大井町駅東口とし、駅前中央通り～区役所前～大崎駅～百反通り～第二京浜(国道1号)～大崎広小路駅～五反田駅～目黒駅を往復するルート(路線延長13.1km)としている。
- 大崎ルートは大井ルートの運行状況を踏まえ判断することになっている。

■鉄道駅500m・バス停300m圏 (品川区地域公共交通基本方針より)



■ルート図 (品川区コミュニティバス導入計画より)



2. 課題・方向性について

(1)大崎ルート of 課題について

- 路線延長が13.1kmと長く、20分間隔での運行場合、必要となる車両台数は6台となり、多額の経費がかかる。
- 一部区間においては時間制限駐車区間が設置されていることや歩道が片側のみしかないこと、道路幅員が十分でないことから、現状では**バス停の設置が困難**。

(2)大崎地区の交通課題に対する対応の方向性について

- 運行コストや道路条件の面から中型バスによる定時定路線運行では課題が多い。交通サービス圏域外が広く存在する西品川付近を中心に**オンデマンド交通の実証運行を検討**することとする。
- 実施エリアは、**交通結節点となる駅を含めつつ、路線バスとの競合を極力抑えた範囲**とし、交通管理者と調整していく。
- 道路運送法上の位置づけや運行方式については他自治体の事例なども参考にしつつ、**今後具体的に検討を進めていく**。

■検討図

